

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予察 注意報第7号

果樹共通（かんきつ、なし、かき、キウイフルーツ等） カメムシ類

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

(1) ヒノキきゅう果のビーティング調査では、8月下旬のカメムシ類の1枝当たりの寄生虫数は、4.5頭（平成 1.7頭）で、過去10年間で2番目に多く（平成29年8月30日付け病害虫発生予察防除情報第13号）、9月上旬は5.7頭で、増加傾向である（図1）。

(2) ヒノキきゅう果の口針鞘数調査では、8月下旬の1果当たり口針鞘数は8.2本（平成 9.6本）、9月上旬は15.3本であった（図2）。

※ きゅう果は1果当たりの口針鞘数が25本以上になると餌として適さなくなり、餌不足になったカメムシはヒノキから離脱して果樹園に飛来する。

(3) ヒノキ上の果樹カメムシ類の発生量が多く、きゅう果の着生量が平年に比べやや多い（平成29年8月16日付け病害虫発生予察技術情報第1号）ことから、ヒノキ上に止まっていたカメムシ類が、きゅう果が餌として不適となった場合や、台風などで餌植物が強風にあおられた場合は果樹園に多飛来するおそれがある。

(4) 予察灯による誘殺数は、佐世保市、南島原市、五島市において8月中～下旬から増加し、平年より多い（図3）。

(5) 9月前期の巡回調査の結果、一部のかんきつ園において発生を認めている。

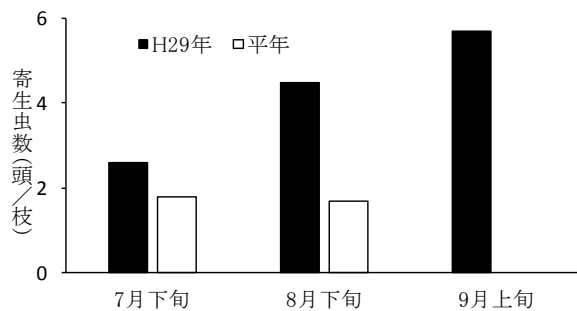


図1 ヒノキきゅう果における果樹カメムシ類寄生虫数

注1) 値は長崎県病害虫防除所の調査(ビーティング法)による
注2) 9月上旬の平成値は未調査

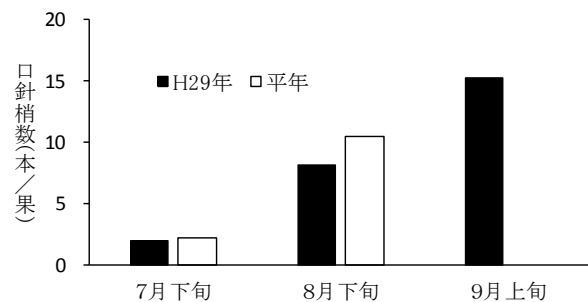


図2 果樹カメムシ類によるヒノキきゅう果の口針鞘数

注1) 口針鞘数は、1地点当たりきゅう果30果の平均値を示した。
注2) 9月上旬の平成値は未調査

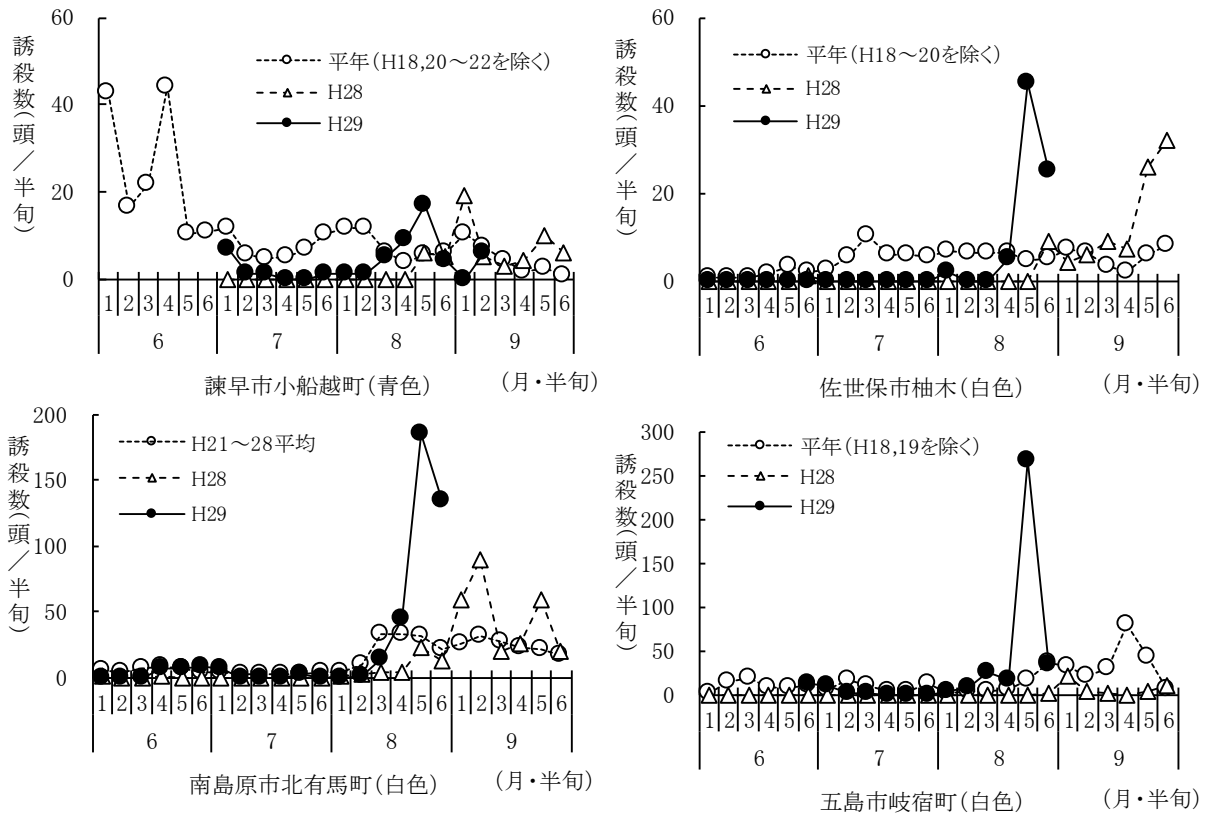


図3 果樹カメムシ類誘殺状況(予察灯;白色、青色)

4. 防除対策

- (1) 果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤等を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

